※※2005年 7月改訂（第3版：薬事法改正に伴う改訂等）
※2003年 7月改訂（第2版：使用上の注意）
承認番号：15600BZZ01360000

機械器具（51）医療用嘴管及び体液誘導管
管理医療機器　輸液ポンプ用ストップコック　JMDN 35375022

トップ 三方活栓

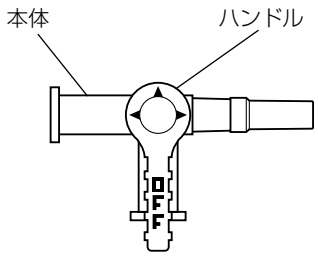
（トップ 三方活栓）
（トップ 三方活栓V）
（トップ 三方活栓クリックタイプ）

再使用禁止

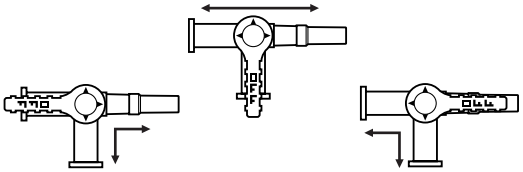
【禁忌・禁止】
・再使用禁止
・血管造影剤等の高圧注入ラインに使用しないこと。［破損のおそれがある。］

【形状・構造等】
＜構造図（代表図）＞

【L型】

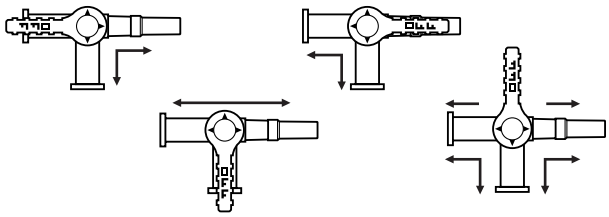


＊ハンドル向きによる流路方向

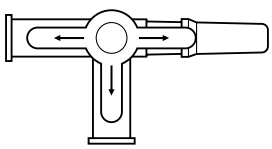


【L型360°】

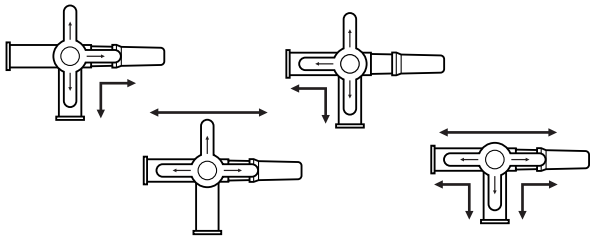
＊ハンドル向きによる流路方向



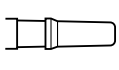
【R型】

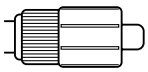


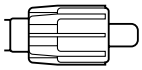
＊ハンドル向きによる流路方向



＊R 型のハンドルカラーにはレッド、ブラウン、イエロー、ブルーもある。
＊オステーパー側はルアーテーパータイプ、ロックタイプ、フラッシュロックタイプの3種類がある。


ルアーテーパータイプ


ロックタイプ


フラッシュロックタイプ

（材質）

本体	ポリカーボネイト
ハンドル	ポリエチレン

【性能、使用目的、効能又は効果】
・本品は静脈麻酔・輸液療法などにおける薬液流路調整に用いるコックです。

【操作方法又は使用方法等（用法・用量を含む）】
1．包装側面の開封口より開封し、汚染に十分に注意しながら三方活栓を包装内より取り出す。
2．接続部は全てルアーテーパーになっているので、保護栓を外し、必要な針基、コネクター等としっかり接続する。その際、接続部先端には直接手を触れないように注意する。
3．必要に応じて三方活栓のハンドルを回転し、流路を変更する。
4．クリックタイプでは、ハンドルの回転時に45°ごとに停止するようになっている。

＜使用方法に関連する使用上の注意＞
・使用前、他の輸液セット、延長チューブ等としっかり接続されていることを確認すること。また、使用中は本品の破損、接続部の緩み及び液洩れについて、定期的に確認すること。※※
・本品に過度の引張りや、接続部に対する過度の応力を加えないこと。また、患者の体動による輸液ラインの押し潰し等には十分注意すること。［接続部の破損、緩みや外れ等が生じるおそれがある。］※※
・接続部に過剰な引張力のかかる使用方法はしないこと。また、意識障害の患者には十分に注意して使用すること。［無理な引張力や無意識の自己抜去により接続部が外れるおそれがある。］※※

・本品には、150kPa（1.5kgf/㎠）以上の圧力が加わる使用はしないこと。[接続部が外れたり、洩れが生じるおそれがある。] ※※
・輸液回路内が閉塞していたり、細いカテーテルを用いているときに、シリンジ等を用いて薬液を注入すると、高い内部圧力が発生して、接続部が外れたり、洩れが生じるおそれがあるので注意すること。※※
・輸液ポンプ等の自動輸液装置で輸液する場合は、輸液回路内が閉塞して高い圧力が加わらないよう注意すること。[接続部が外れたり、洩れが生じるおそれがある。]※※
・本品にシリンジ、コネクター等を接続する場合は、外れないようにしっかり接続すること。また、液が流れる方向にハンドルが操作されていることを確認すること。※※
・ハンドルを引き抜く方向に過度の負荷を加えないこと。[液洩れが生じるおそれがある。]※※
・混注キャップ等を装着し、注射針を用いて混注する場合、針先がハンドル部に接触すると、ハンドルを破損して液洩れが生じるおそれがあるので注意すること。
・L型を使用する場合は、ハンドルを180°以上回転しないこと。[ハンドルが浮き上がり、液洩れが生じるおそれがある。]
・本品から薬液を混注する場合は、空気の混入に注意すること。※※
・輸液を一時的に中断する等、三方活栓のメステーパーから輸液セット、延長チューブ等を取り外す際には、専用の保護栓又はコネクターNL等を接続し、確実に密封すること。[メステーパー部が開放状態になることにより、液洩れや空気混入、汚染のおそれがある。] ※※
・三方活栓から混注を行う場合は、混注する薬液の性質を考慮し、必要な場合は混注の前後に生理食塩水等でフラッシュを行う等の適切な処置を行うこと。[三方活栓は輸液の流路から横に分岐した構造になっているため、薬液の一部が残存するおそれがある。] ※※
・本品の接続に際して、過度の締め付け及び増し締め等には十分注意すること。[接続部が破損するおそれがある。] ※※
・接続部に薬液等が付着した状態での締め付け及び増し締め等には十分注意すること。[接続部が通常より深く入り込み、破損するおそれがある。] ※※
・接続部に薬液が付着すると、接続部にゆるみ等が生じる場合があるので注意すること。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

・包装が破損しているものや、汚れているもの、製品そのものに異常が見られるものは使用しないこと。
・包装を開封したらすぐ使用し、使用後は感染防止に留意し安全な方法で処分すること。
・本品に他の製品を接続して使用する場合は、製品の添付文書又は取扱説明書を必ず読み、その指示を熟知し使用すること。

＜相互作用（医薬品との併用注意）＞※※

・医薬品の添付文書確認後、使用すること。
・使用中は本品の破損、接続部のゆるみ及び薬液洩れ等について、定期的に確認すること。
・脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、三方活栓のひび割れについて注意すること。[薬液により三方活栓にひび割れが生じ、血液及び薬液洩れ、空気混入等のおそれがある。特に、全身麻酔、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じるおそれがある。なお、ライン交換時の締め直し、過度の締め付け及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。]
・ひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。
・自己点検により確認された、原液を使用した場合にひび割れが生じるおそれのある医薬品の一般的名称は以下の通り。
シクロスポリン（注）、パクリタキセル（注）、ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル（注）、アミノフィリン（注）、フルオロウラシル（注）、リドカイン噴霧剤、エトポシド（注）、オレイン酸モノエタノールアミン（注）、ジフェンヒドラミン、イホスファミド（注）、パルミチン酸デキサメタゾン（注）、スルファメトキサゾール・トリメトプリム（注）、フルルビプロフェンアキセチル（注）、ミコナゾール（注）、アルプロスタジル（注）、ダイズ油（注）、タクロリムス水和物（注）、プロポフォール（注）。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

＜貯蔵・保管方法＞

・水ぬれに注意して保管すること。高温又は湿度の高い場所や、直射日光の当たる場所には保管しないこと。

＜使用の期限＞

・内箱の使用期限欄を参照のこと。
（自己認証により設定）

【包装】

20個／箱

【製造販売業者及び製造業者等の氏名又は名称及び住所等】※※

製造販売元　株式会社トップ（添付文書の請求先）
〒120-0035　東京都足立区千住中居町19番10号
TEL 03-3882-3101

製造元　トップ化成株式会社
〒306-0605　茨城県坂東市馬立字原771-1

F0200-3